

平成29年度 嬉野市教育委員会 活動状況評価シート

教育委員会の活動状況		教育委員会における自己評価				
平成29年度の具体的活動		評価	項目	項目ごと実績・成果・評価	課題・問題点	改善点
具体的施策	(1) 定例教育委員会会議の公開性の拡大と充実	A	・市長部局の職員及び、市内小中学校教職員等へ傍聴を拡大する。なお、市長部局の新規採用職員への研修の一環として傍聴を依頼する。 ・定例教育委員会終了後に、傍聴者から感想並びに教育課題についての意見交換を行う。	・学校長、教頭、主幹教諭、事務主任並びに市役所職員(主任級や新規採用職員)の傍聴を行った。 ・傍聴者からは、市教育委員会の役割や親の立場での感想や意見などを聞くことができた。	・業務多忙になっている市役所職員への傍聴依頼が課題である。	・定例教育委員会傍聴については、市職員その年度の新採者の研修の一環として取り組む。 ・外郭団体の傍聴者について広く広報を行い傍聴の拡大を図る。
	(2) 教育委員に対する多様な教育情報の提供	A	・学校教育、社会教育並びに教育総務に関する情報を教育委員に年間を通して提供する。	・予算、補正予算の情報及び学校施設の改修状況の情報並びに国県の行動計画を元に社会教育、文化・スポーツ事業の計画を策定し、情報の提供を行った。	・定例での情報提供では間に合わない緊急案件に対しては直接連絡の方法をとるが、教育委員会の意思の疎通が課題である。	・情報提供の再迅速化に努める。また臨時教育委員会の開催が必要な案件については積極的に取り組む。
	(3) 研修会等への積極的な参加	B	・研修会等への参加をとおして、新教育課題について把握し、教育委員としての専門性の構築を図り、資質と能力の向上に努める。	・市町教育委員会研修会や文部科学省主催の市町村教育委員会研究協議会へ参加し、教育委員としての資質向上に努めた。	・研修会に参加後、委員同士での意見交換会の開催を図り、研究成果の充実を図ることが課題である。	・研究会等で得られた成果の確認を実施して教育委員同士のレベルアップを図る。
	(4) 教育委員としての役割	A	・教育行政施策全般についての問題点や課題を指摘し、自己の考え方や意見・思いを述べ、教育委員としての役割を果たす。 ・新教育委員会制度へのスムーズな移行を推進するため、各々が制度について理解を深める。 ・社会教育委員と教育委員との懇談会を実施して、教育委員一人一人の考えを述べあい相互の理解を深める。	・社会教育委員会との懇談会に参加し、教育委員としての考え方をそれぞれが述べることができた。	・社会教育分野の行事等について意識の高揚を図り、教育委員一人一人の考え方を述べあい、相互理解を深めることが課題である。 ・社会教育委員と教育委員との懇談会を設定し、協議課題の選定が課題である。	・社会教育分野についても自分の考え方や意見を述べるができるように意識改革を図る。 ・社会教育委員と教育委員との懇談会の場を数多く設定する。
	(5) 学校等と教育委員会との協働意識の高揚と課題の共有化	A	・「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」で教職員との意見交換を実施し、教育現場の声を反映した教育行政の推進を図る。 ・「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」のより一層の充実を図るため、教育委員自ら、トーク会のグループ(班)に参加し意見を述べる。 ・PTA役員等との意見交換会を開催し、地域住民の声を反映した教育行政の推進を図る。	・教育委員会単独学校訪問において出前トーク会を実施し、今年度は5校を訪問し意見交換を行った。出席者は学校職員、学校運営協議会委員、PTA会長、母親部長、教育事務所指導主事、教育相談員、早期支援コーディネーター、子ども学校塾指導者、地域コミュニティ会長などで会議後には各教育委員のコメントを述べた。また、地域からの意見を伺い、見えない情報の提供を得ることができた。	・関係団体代表の参加調整が課題であり、主要な協議の内容についても事前に決めておき出席者全員が、教育情報に係る発信ができる体制づくりが必要である。	・事前の日程や議題等を早期に通知する。 ・議題によっては他の部署から協力が得られるように調整を図る。
	(6) 市長部局と教育委員会との関係	B	・学校訪問時の「教育委員と教職員と語る会(トーク会)」で、市長部局の部長・課長等の出席を求め、教育現場の声やトーク会出席者の意見を市の行政に反映させる。 ・市長部局に委任している生涯学習部門において、社会教育委員との懇談会を実施し、地域における社会教育活動等意見交換を行う。	・学校視察訪問において市議会議員の視察や財政課同行の訪問を行い、学校施設の現状把握に務め今後の対応について行政部局への働きかけの対応に努める予定であったが訪問時のトーク会の議題が行政方面の課題にはならなかった。	・市の行政に反映できるようなトーク会の議題設定が課題である。	・行政当局からのトーク会参加が出来るような議題づくりに取り組む。

評価委員からの指摘事項・意見	評価結果(段階)	指摘を受けての改善点	評価4段階
<p>・教育委員会の活動については、その先進性や良さをもっと理解してもらうためにも、PRを続けてもらいたい。傍聴の拡大も含め、活動にふれてもらう、知ってもらう機会を是非拡大していただきたい。</p> <p>・「トーク会」は有意義であり、継続した取り組みを期待したい。市議会議員の視察参加や財政課同行の訪問、トーク会への参加についても、引き続き検討を願いたい。</p> <p>・社会教育委員と教育委員の交流についても継続を図り、政策の充実につなげてもらいたい。</p> <p>※評価項目に関連するものとは別に、市内学校のエアコン稼働率の低さ(と学校間のばらつき)が話題となり、インフラの有効活用という観点からも、各校での電気使用料のような基盤的経費について、十分な充当を求める意見があった。</p>	A	<p>・定例教育委員会の傍聴拡大については、現在の状況を維持しながら社会教育委員や市議会議員(文教福祉常任委員等)の傍聴を依頼するなどして拡大を図りたい。</p> <p>・教育委員と教職員が語る会「トーク会」については、市長部局や市議会議員への参加依頼を図っていきたい。</p> <p>・社会教育委員と教育委員との懇談会を実施して、これからの嬉野市の教育(家庭・学校・社会)の方向性について協議していく。</p>	<p>A 達成(80%以上)</p> <p>B ほぼ達成(51~79%)</p> <p>C やや不十分(50~21%)</p> <p>D 不十分(20%以下)</p>